第２回酒田市学校統合ビジョン懇話会　会議要旨

日　時　令和８年１０月２２日(木)午後６時３０分～８時１０分
場　所　酒田市役所７階　７０３会議室
出席者　同懇話会委員　芝田史紀委員、田賀幸委員、小野英男委員、杉山久仁明委員、工藤海蔵委員、荒生妙子委員、加藤博之委員、石黒一起委員、今野誠委員、石垣学委員、佐藤英喜委員
教育委員会　赤坂教育長、斎藤教育次長、庄司教育総務課長、菅原学校教育課長、佐藤学校教育課指導主幹、小林学区改編・義務教育学校整備主幹、学区改編・義務教育学校整備室 大谷上席専門員、数馬主任
欠席者　同懇話会委員　佐々木由子委員、池田浩委員、齋藤学委員

１　開会

２　第１回懇話会の委員意見を受けての対応

委員／新庄市立明倫学園は明倫中学校の敷地に整備したのか。別な敷地に整備したのか。
事務局／小学校と中学校が隣接しており、２つの学校間に市道があったが、市道を廃止して一体的な敷地として整備したと伺っている。
委員／参考資料２に出てきた守口市立さつき学園（大阪府）と交野市立交野みらい学園（大阪府）の教職員数を教えてほしい。また、第四中学校区義務教育学校で見込まれている教職員数も教えてほしい。
事務局／その２校については現在把握していないが、明倫学園は児童生徒数が六百数十名に対して教職員８０名ほどだと伺っている。酒田市立川南みらい学園は児童生徒数が６２１名ほどを見込んでいるため、教職員数は８０名程度になるものと思う。
委員／義務教育学校のデメリットは特にないとのことだったが、デメリットを調べても出てこなかったのか。
事務局／今回メリットがあるものだけを紹介したわけではない。他の自治体で同じように義務教育学校の設置を検討したり、視察したりしているところがあり、公表されている資料の中でわかりやすいものを紹介した。デメリットが全くないわけではないが、それ以上にメリットが大きいというものが多かった。
委員／視察でデメリットを探すのは難しいと思う。子どもたちや保護者、地域の人たちが感じているメリット・デメリットがあると思う。第四中学校区では保護者や地域の皆さんがどのように感じているのか。紹介してもらった例は、規模が酒田市の小中学校とは違うので、果たして安心材料になるのかなと思った。
　また、メリットとして「中１ギャップがなくなる」とあったが、現在は小学校で不登校になった子が中学校入学時に新たなスタートを切れる部分があると思うが、義務教育学校になると９年間同じメンバーでの生活になるので、不登校になったときに果たして同じメンバーの環境に戻りたいと思えるものか。さらに、中１ギャップが減る分、高１でのギャップが大きくなる

のではないか。そうであれば、中１で一度ギャップを感じておいた方がよいのかなと思う。そのため、学校統合は致し方ない流れだと思うが、小学校と中学校を統合するメリットがわかりにくい。

その他、教育面のメリットだけを押すのではなく、学校統合により削減できる経費を隠さずに示してもよいと思う。子どもたちの教育環境にとってよいという理由ばかりを押すので腑に落ちない。

委員／説明内容は理解した。ただ、各小学校は１００年以上の歴史を持つとともに、地域の学校という側面がある。地域ならではの行事や地域と一体になった取り組みが、学校統合によりなくなってしまうのではないか。例えば、西荒瀬小学校では鮭の孵化に関する学習で、地域と学校が一体になって代々取り組みを続けている。もっと地域との情報共有、話し合いが必要だと感じている。

また、義務教育学校にはデメリットがあまりないとのことだったが、例えば、鶴岡市では学校統合に関する検討委員会の中で、地域の要望があればその地域に小学校を１校は残してもよいのではないか、という話し合いが行われているようだ。これに対して、どのような考えでそうなっているのか、なぜそのようにしようとしているのか、情報収集した方がよいと思う。他にも、岐阜県山県市では、あえて小規模学校を維持する方針を掲げて、市全体で少人数学級のデメリットをどのようにカバーするか、山県方式として取り組んでいるようだ。こういった事例に触れずに、一気に義務教育学校化へ舵を切ってもよいものか。もう少し議論を尽くしてもよいのではないかと感じた。

３　意見交換「酒田市学校再編ビジョン（案）について」

委員／現在は小学生の子どもに学区外に出かけないように教えているが、学校統合により学区が広がり、学区内でより遠くへ移動できることになってしまうと、安全性が心配だ。また、登下校についても、今までより遠くなるためルートなどが安全なのか心配だ。その他、同じ校舎に大勢の児童生徒が集まった際の安全性はどうなのか。例えば、高所からの転落など、どのように対応するのか。

事務局／確かに学区は中学校区となるが、子どもたちの行動範囲については中学校区とするのか、これまでの小学校区とするのか、そのときの検討課題になると思うので、必ずしも学区が広がったからといって自由に出かけられる範囲も広がるものではないと考える。登下校については、スクールバスの運行基準に基づき、通学距離が一定以上になる場合はスクールバスでの登下校となる。スクールバスの安全性に関しては、何度か練習して危険箇所を確かめるなど、事前に安全確認をする予定。また、校舎内での安全性の確保は大前提である。中学校校舎を使用する際は、階段に手すりを設置したり、トイレを改修したりするなど必要な改修をするので、その際に確認していく。

委員／スクールバスに関連して、学区が広がることで乗車時間が長くなり、遊ぶ時間や勉強する時間が減ることがあるのではないか。スクールバスの運行スケジュールなどを示した方が、

保護者も安心すると思う。
事務局／第四中学校区では現在検討中。なるべく子どもたちの負担にならないように検討したい。
委員／登校方法に関連して、統合によりスクールバスでの登校になると距離的にも遠くなるし、現在の登校班がなくなってしまうなど不安はあると思う。それらの課題は地域ごとに違うので、地域と学校で話し合いながら着地点を見出せればよいと思う。実際に第四中学校区では話し合いが進んでいるので、それを参考にすることもできる。
　まずは、地域に対してしっかり説明してほしい。教育委員会と地域と学校で話し合いの場をしっかり持つことが前提であれば、さまざまな課題をクリアできると思う。また、義務教育学校に対する理解が入口として重要だと思う。ただ、相反する言い方になるが、時間をかけて丁寧に説明してほしいが、スピード感も持って話し合いをしてほしい。
委員／義務教育学校では、小学校・中学校両方の教員免許が必要だと思うが、実際にそのような人材を確保できるのか。
事務局／義務教育学校では、小学校・中学校両方の免許を持っていることが望ましいとされているが、小学校に相当する学年に指導する場合は小学校免許、中学校に相当する学年に指導する場合は中学校免許を持っていることが最低条件となっている。その上で、両方の免許を持っている教員は乗り入れ授業が可能になるため、例えば中学校の理科の先生が小学生に理科を教えることができる。
委員／中１ギャップについては、経験することでたくましく成長する子もいると思う。また、学校統合によってこれまでの学校ごとの特色がなくなるのではないか。今後、黒森歌舞伎はどうなるのだろうと思う。地域の火は残しながら、子どものために前向きに進めてほしい。
事務局／学校統合によって、地域との絆やつながりがなくなることは避けなければならないと考えている。一方で、学区が広がることにより、各地域の行事に参加できる子どもが増えるなど、新しい効果が期待されるところもある。現在第四中学校区では、地域の取り組みをどのように取り込むか検討しているところ。
委員／かつて大沢小学校では太鼓が盛んだったが、現在は八幡地域全体で子どもが取り組むことで太鼓が残っている。それは地域の大人がつないでくれているからだと思う。やはり地域の大人とのつながりが大事だと思う。
委員／小学校での勤務を経験した際、小学校入学式の１年生は格別に可愛く見えたし、卒業式の６年生はこんなに大きく成長したのかと感じるものだった。義務教育学校になると、中学校教員もそのような子どもの姿を見られるようになるため、より子どもたちを大事に育てようとすると思う。
　新庄地区では、義務教育学校となって以降は学力面も生徒指導の面もとてもいい状況になったと聞く。そのため、酒田市でも義務教育学校を目指すことにそれほど心配していないが、確かに細かいところで不安もある。教職員数は約８０名ということで、
５０名を超えると大規模なので、うまくコミュニケーションをとれるのかという課題もある。
　本ビジョンは将来展望を示すものということだったので、夢のあるものだといいなと思った

が、課題も多い内容だった。これまでの小中一貫教育の成果をもっと載せてもよいと感じた。本ビジョンをネット上で見た人から「酒田市いいことやってるね」「酒田市に住みたいな」「未来はそんなに暗くないかもしれない」と思ってもらえるような展望にできたらいいと思った。

また、地域住民と一緒に考えていくことが大事だと思う。各学区の状況は同じではないので、一方的に方針を押し付けたのでは地域の協力体制は得られない。ただ、話し合いをすべて教育委員会でするのではなく、スクール・コミュニティなどさまざまな場で行うことが大切なのではないか。

委員／これだけの人口減少の中で、子どもたちの教育環境にとってよいのであれば、義務教育学校はよいと思う。子どもは地域で育てなければいけない。例えば、小学５年生になると学校田で田植え、稲刈り、脱穀を経て、文化祭でお米を販売している学校がある。また、相撲大会がある学校では、子どもたちは一生懸命に取り組んでいて、その土俵づくりには地域が協力している。義務教育学校になっても地域とのつながり、地域の伝統は残してもらいたい。

委員／地域とともに歩んできた活動を継続できるかという課題がある。このような活動は、小学校の社会科の延長で取り組んでいることなので、例えば中学校校舎を使用する場合、近くに田んぼがないことになる。地域との話し合いの中で、さまざまな課題を１つ１つクリアすべきだと思う。

また、基本的に中学校校舎を使用するとしながら、第四中学校区では十坂小学校校舎を使用することになっている。本ビジョンでは、使用する校舎について基本的には中学校校舎を使用するとしながらも、地域との話し合いの中で決めていく余地があってもよいと思った。

事務局／鳥海八幡中学区では子どもの数が減っていて、昨年度から地域の役員やＰＴＡと話し合いを継続している。来月には、地域の役員・ＰＴＡ代表・学校長から集まってもらい話し合う予定。地域やＰＴＡの理解は欠かせないと思っている。市が押し付けるのではなく、方針を示しながら、よりよい姿になるにはどうしたらよいか話し合うことが必要だと思う。これまで、統合は早くすべきという意見が多かったが、一方で市としてどう考えるのかという声もいただいた。今までは複式学級を解消するために個別に統合してきたが、将来を見通したものとして人口減少の現実を受け止め、子どもたちにとってよりよい教育環境を考えた結果が本ビジョンの提案になっている。地域・ＰＴＡと話し合いを重ねながら、スピード感を持って進めていきたい。

委員／義務教育学校になり中学生と小学生が一緒になると、学校全体に優しく、温かい雰囲気が広がるのだろうと期待している。不登校の子が中学校進学時にリスタートできなくなるかもしれないが、それでも優しく思いやりにあふれた学校づくりを進めていけば、よりよい方向に変わっていくのではないかと思う。

地域とのつながりを考えたとき、学区が広くなる分、各地域のさまざまな資源を活用した活動・学校づくりをしていくことが大事だと思う。９年間のどこかで地域の伝統文化に触れる機会を大切にしたい。第四中学校区は令和１５年度に義務教育学校となるが、先行事例として待たずに、各地域の思いを大事にしながらベストな方法を話し合ってほしい。

また、浜田小学校区のうち六中に進学するエリアを第二中学校区に、泉小学校区のうち一中に進学するエリアを第六中学校区に学区改編することについては、そのままやるのはどうなのかなと思う。かつて港南小学校が亀城小学校と統合する際、港南小学校区から一中に進学するエリアは琢成小学校区に学区改編した例もある。保護者の思いを大切にして進めてほしい。

事務局／令和４年度にこれらの学区に関するアンケートを行ったことがあり、その際は、このままでよい人と学区を改編した方がよい人との割合が半々だった。今回、ビジョンとして示したが決定事項ではないので、意見を伺いながら考えていきたい。１つの小学校から１つの中学校にという思いは変わっていないが、保護者の意見も大切にしながら柔軟に考えていきたい。

委員／義務教育学校で９年間一貫した教育ができるメリットは大きいと思う。本ビジョン案Ｐ３７の酒田市「まなびの樹」における「根の力」にあるように、先生方の力と地域・保護者で協力して、あいさつのできる子どもになるように、子どもの人間性を育てていただきたい。また、統合後は先生方にもできるだけ研修を受けてもらえるような学校にしてもらいたい。

委員／スクールバスについて、他の自治体の事例を紹介したい。島根県雲南市では、スクールバスによる登校に変わることで子どもたちの運動不足・体力低下を懸念して、スクールバスを学校から５００メートルほど離れたところに停めて、子どもたちをそこから登校班で登校させているようだ。また、福島県田村市では、スクールバスの車内で英語に触れる機会をもったところ、子どもが英語に関心を持つようになったり、ＡＬＴの先生の英語を聞き取れるようになったりしたとのこと。さらに、遊佐町ではスクールバスと町営バスを一本化したとのこと。参考にしていただければ。

委員／参考資料１のＰ９に「系統性・連続性を意識した教育」とある。次期学習指導要領はデジタル化され、中学校の指導内容で関連する小学校の指導内容を参照することができるようになる。しかし、実際に子どもの姿を見ないと指導には生かせない。その点、義務教育学校で小学生と中学生が一緒になっていることはよいと思う。また、知能と学力には相関関係があると言われているが、知能から予測される学力よりも低い成績の子（アンダーアチーバー）が増えているようだ。同参考資料の中にもあるように、子どもたちは学びの中でつまずくことがあるが、それを丁寧に見取り、同じ校舎で小学校と中学校が連携して、学びをつないでいく指導ができるのはよいことだと思う。最後に、現在の中学校の大きな課題は、かつては中学３年生時に高校入試に向けて学力を伸ばす環境があったが、今はどこかしらの高校に入れる状況となっている。そのような中で、学びに対する意識付けのためにも、学ぶ楽しさを知ってもらう学びの連続性を大切にしていくべきだと感じている。

委員／本ビジョン案Ｐ３７の酒田市「まなびの樹」の中で、「挑戦させる」「考えさせる」「経験させる」という表記があるが、「させる」という表現が気になる。「挑戦する」「考える」「経験する」それらを「支援する」などの表現の方がよいのではないか。

事務局／こちらの「酒田市小中一貫教育ビジョンＲ７～Ｒ９」は、教員向けに作成したものなのでこのような表現になっている。今後の資料作成の中では表現を見直したい。

４　その他

委員／パブリックコメントはどのように行われるのか。

事務局／市広報１１月号にお知らせを掲載するほか、１１月１１日から３０日まで市ホームページに資料を公表し、意見を受け付ける予定。意見の受け付けは、郵送、メール、ＦＡＸなど、さまざまな手法で広く受け付ける。詳細は、市広報１１月号をご確認いただきたい。

５　閉会

以　上